

「研究テーマ」

新聞に親しみ、社会の出来事に興味を持とう

加古郡稲美町立母里小学校 校長 佐藤 昭則
教諭 湊 謙

1 はじめに

本校は加古郡稲美町の東部に位置し、神戸市西区と三木市に隣接する緑豊かな田園風景の広がる校区を有する。全校児童278人、各学年1～2クラスという小規模な学校である。児童は比較的挨拶がよくでき、人の話もよく聞き、友だちとも仲良く遊べる。その反面、幼少期より比較的少ない仲間集団で過ごしてきたため、友人関係が固定化、序列化している傾向も見られる。

5月に6年生に行ったアンケート結果によると、多くの家庭で新聞を購読しているが、子どもたちが新聞に目を通す機会はほとんどないか、テレビ番組欄を見る程度であった。朝の会などで「新聞にこんな記事が載っていたんだけど知ってる？」と問いかけても無反応であることが多かったが、その理由がアンケートで明らかになった。また、家庭での遊びはテレビやゲームが中心という児童も多く、ほとんどの情報はテレビやインターネットから得ている現状がある。したがって、情報を得ることはできるが、自分たちから情報を発信するという「表現する力」に関しては大きな課題があると見られた。

そこで、本年度、NIE実践校の指定を受け、新聞を活用した教育活動を推進するために、以下のように「高めたい児童の力」を設定した。

- ①社会の出来事に興味・関心を持ち、視野を広める。
- ②自分の考えを持ち、自ら表現しようとする力を育てる。

2 実践の内容

(1) 新聞の提供状況（2013年度購読計画表）

新聞名	6月	10月	11月	2月
神戸新聞	○	○	○	○
読売新聞	○	○	○	○
産経新聞	○	○	○	○
日本経済新聞	○	○	○	○
朝日小学生新聞	○	○	○	○
毎日小学生新聞	○	○	○	○

(2) 配置と整理、掲示などの工夫

今年度は1年目ということもあり、特に4年生以上の児童が日常的に新聞に触れる機会を多くすることにした。そのため、3階に新聞コーナーを作り、自由に閲覧したり、クラスに持っていったりできるようにした。

また、子どもたちが興味を持ちそうな記事や、特に意識してほしい記事などは切り取り、掲示板などに貼って紹介していった。さらに、新聞にはたくさんの写真が使われている。新聞の小さな活字が苦手な児童にも写真は非常に効果があった。好きなスポーツ選手や有名人、乗り物などが載っている写真の前では、たくさん子どもたちが足を止めて、記事をおもしろそうに読む姿

があった。特に今年度は「ソチ・オリンピック」が開催されたため、連日のように選手の活躍する写真が新聞に載っていた。それらをタイムリーに掲示することで、ますます新聞に興味を持つ児童が増えていったようである。



【新聞（NIE）コーナー】



【掲示物（ソチ五輪関連記事）】

（3）自分たちの新聞をプロに見てもらおう（記者派遣の活用）

6年生は、10月の修学旅行に向けて1学期から平和学習を行った。自分たちで研究テーマを決め、本やインターネット、新聞記事などを活用して9月に1人1枚の学習新聞を作成した。NIE実践校は記者派遣事業を受けられるため、読売新聞社の記者である長尾尚美さんをゲストティーチャーとしてお招きし、いろいろなことを教えていただいた。特に今回は、子どもたちが作った学習新聞をプロの目から評価していただいた。新聞の名前、見出しのつけ方、レイアウト、イラスト、色の使い方など、自分たちの作った新聞が長尾さんに評価されていくことで子どもたちは、ますます新聞作りに興味を持つようになった。また、長尾さんご自身が取材された新聞記事を使って、新聞の見方や見出しの工夫、写真の撮り方、取材の苦労話など、様々なことを教えていただき、これまで以上に子どもたちは新聞に関心を持ったようである。

修学旅行後は、長尾さんのアドバイスを参考にしながら、テーマ別にグループを作り大きな壁新聞を作成し、ポスターセッションを行った。保護者にも見ていただき、好評であった。

<児童の作文より>

・今日はたくさんのことを教えていただき、ありがとうございました。新聞記者の七つ道具がすごくおもしろかったです。ひとつの記事を書くためにたくさんの人に取材をしていることを知りました。私はインターネットよりも新聞の方が絶対に正しい情報だと思いました。また、わたしたちの作った新聞をほめてくださったり、よりよい新聞にするためのアドバイスもいただいて、とても勉強になりました。

・今日は稲美町まで来ていただいてありがとうございました。長尾さんが広島で仕事をされていたと聞いてびっくりしました。ぼくたちもこれから広島へ行くので、とても参考になりました。ぼくも将来は新聞記者になってみたいです。



【記者派遣事業（読売新聞社・長尾記者）】



【6年生の学習新聞（修学旅行後）】

（4）委員会活動で新聞を活用しよう

体育委員会の常時活動は、従来、体育的行事の準備や用具の整備がほとんどであった。そこで、体育委員の子どもたちに呼びかけて、「スポーツ・健康・食事」の三つのカテゴリーから一つ自分が興味を持っているものを選び、それに関する新聞記事や写真を集めることにした。2学期と3学期に1度ずつ行った。慣れない作業のため1度目は戸惑っていた子どもたちも、2度目は取りかかりが早く、記事もたくさん選ぶことができた。記事や写真といっしょに自分で自主的にコメントを入れる児童もいて、意欲的に新聞に向き合うようになってきていると感じた。



【新聞記事を選ぶ体育委員会の児童】



【体育委員会の児童が選んだ記事】

（5）海外に目を向けよう

6年生の児童は5月に、在日フィリピンの方々と交流会を行った。神戸市兵庫区で働いている5人の方々との交流であった。英語であいさつをしたり、簡単な英会話での質問、フィリピン・クイズ、ミサンガ作りなどを行った。給食も一緒にとり、最初は緊張していた子どもたちも、お別れをするときには本当にさびしそうであった。

11月にフィリピンを大型台風が襲い、甚大な被害がもたらされた。多くの児童がニュースなどでその事実を知っていた。新聞各紙も毎日のように写真付きで報道をしており、NIEコーナーにそれらの記事を掲示していった。5月にフィリピンの方々にも仲良くしていただいたことを子どもたちはよく覚えていて、フィリピンの惨状に多くの子どもが心を痛めていた。そんな時、計画委員会

が中心になって、フィリピン支援に全校で取り組むことになった。特に学用品が不足しているとの情報を得て、家庭で眠っている新品の学用品を集め、送ることにした。集まった学用品類はおよそ20キログラムになり、現地の日本人スタッフチーム（LOOB）へ送った。

<児童の作文より>



【フィリピンの台風被害を伝える記事】

・私は、1学期にもらったブレスレットや写真をととても大切にしています。外国の人とあんなに近くで話をするのは初めてで、とてもドキドキしたけど、話してみるととても楽しい人たちばかりでした。ニュースや新聞でフィリピンが大きな被害にあったことを知って、とても悲しくなりました。文房具を集めながら、はやく復興してほしいという気持ちが強くなりました。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・以前よりも新聞に目を通す子どもたちが増え、新聞に触れることに抵抗がなくなってきたようである。身近に「新聞がある環境」を作り、必要なときに自分たちで調べたり使ったりできるようにストックしておいたことがよかったと思う。
- ・社会の動きに興味を持ち、家庭でも新聞に目を通したり、テレビのニュースに関心を持つ児童が増えてきた。また、朝の会や授業中に時事的な話題を出したとき、反応する子どもが多くなってきた。
- ・記者派遣事業で、自分たちの新聞をプロの目で評価していただいたことは、子どもたちに本当に励みになった。長尾記者の工夫や苦労話など、どれもすべて子どもたちは興味深く聞いていた。教師以外の大人からお話を聞くことは非常に大切だと改めて感じた。また、学習新聞作りにも長尾記者のアドバイスが効果的であった。
- ・小学生新聞を2紙購読したが、子どもたちに好評であった。読みやすく、興味が持てる記事が多く、来年度も引き続き購読をしていきたい。

(2) 課題

- ・本年度は高学年を中心とした取り組みであったため、次年度は低学年児童にも写真などを中心に、新聞記事に触れさせたい。
- ・本年度は活動が中心であった。そのため、自力で新聞記事を読み、情報を取り出して考える力は十分に育っているとは言えない。目的に応じて情報を整理し、自分の考えを文章に表現する力を伸ばす指導をより研究していく必要がある。
- ・国語や社会などの教科の授業における新聞活用について、深く研究していく必要がある。スピーチ活動などにもつなげられれば、より子どもたちの表現力の育成に新聞が役立つと思う。